

【概要】

濱田航至

(1) 研究目的

本研究ではコンテンツツーリズムをテーマに、研究対象として NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」を取り上げ、同作品のゆかりの地である東京都調布市・鳥取県境港市・島根県安来市に見られる観光行動の差を明らかにした上で、その要因を比較分析から考える。

(2) 研究背景

近年、「聖地巡礼」という言葉とともにコンテンツツーリズムが注目を集めている。しかし、コンテンツによって誘発された観光行動（コンテンツツーリズム）は和歌の歌枕を尋ねる旅のように古くから存在していた。今、コンテンツツーリズムは増田寛也(2014)「地域消滅」に端を発する地方創生の文脈の中で、資源の少ない地方に低コストで価値を付加し地域振興を進める手段として地方自治体や研究者が新たに注目するようになったのである。

2010 年に筆者の住む東京都調布市を舞台とする NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」が放送された。本作品の舞台は主に調布市であったにも関わらず、より多くの観光客が訪れたのは作品の作者である武良布枝やその夫の水木しげるの出身地である島根県安来市や鳥取県境港市であった。舞台地よりもゆかりの地に多くの人が訪れたことに疑問を持ち、コンテンツが観光行動を誘発する要因は何なのかを本研究で比較事例分析を用い明らかにする。

(3) 意義

これまでコンテンツツーリズムの研究対象は主にアニメや映画が主流である。しかし、筆者はテレビドラマに焦点を当てる。さらに、多くの研究は一作品一舞台地に着目しているのに対し、本研究においては同一作品における複数の地域の事例を比較分析することでより客観的な要因分析を試みている。

(3) 研究方法と結果

本研究においては、比較政治学の分析手法を応用する。「ゲゲゲの女房」のゆかりの地である 3 都市における観光客数の差を起因した要因として、観光プロデューサーである地方自治体・観光協会とコンテンツプロデューサーである NHK の 2 つの観点から分析を進めた。結果として、水木しげるの出身地が放映後に最も多くの観光客を誘致することができたのは、「妖怪」「ゲゲゲの鬼太郎」「水木しげる」と言えば境港という地域イメージを、市を主体として継続的に行ったことがあげられる。また、市だけではなく、民間団体や企業、市民までもがそれぞれの立場から「ゲゲゲ」のコンテンツを生かしたまちづくり・観光促進を積極的に働きかけたことは見逃せない。さらに、本研究では地域イメージの確立・またその強化に果たすコンテンツプロデューサーの重要性が明らかになった。

(5) 全体の構成

第 1 章では、本研究のテーマを設定する際の問題意識や背景を述べた上で、分析手法と本

研究の構成について概説する。第 2 章ではコンテンツツーリズムの定義・歴史・類型についてそれぞれ解説し、コンテンツツーリズムとは何かを明らかにする。第 3 章では、研究対象である NHK 朝の連続テレビ小説について概説し、研究対象として取り上げる意義について触れる。第 4 章で観光について軽く触れる。第 5 章ではこれまでのコンテンツツーリズムの先行研究の中から、本研究を考える上で重要なものを紹介する。第 6 章では実際に調布市・境港市・安来市における「ゲゲゲの女房」を用いた観光振興の帰結の差を明らかにした上で、その規定要因について分析し考察する。第 7 章では、本研究の限界と課題を明らかにし、今後の展望について述べる。